



書評

[評者]

坂本 壮

総合病院国保旭中央病院
救急救命科

高齢者 ER レジデントマニュアル

増井 伸高 著

●B6 変型 頁 298 2020 年 4 月

定価：本体 3,600 円＋税

[ISBN978-4-260-04182-9] 医学書院刊



私は増井伸高先生に嫉妬している。そりゃそうでしょ、こんなに毎回毎回読みたくて仕方がない本を書かれるのだから。心電図、神経救急、さらに骨折、おっと忘れてはいけない救急隊向けの本から外国人診療の本まで……。『こんな本を書きたいな』と思ったら、そのはるか上をいく素晴らしい本を私のスマートフォンがしつこく薦めてくる。私は対面でお目にかかったことはないのだが、講演をオンラインで拝聴したことはある。これまた面白い、そしておそらく増井先生はいい人だ。知らぬ間にファンになっていた。そんな増井先生の最新作『高齢者 ER レジデントマニュアル』、読まないわけにはいかない。

救急外来を訪れる多くは高齢者であり、そのマニュアルとならばとんでもなく分厚い本になりそうだが、この本は全 34 項目で構成され、各項は数ページから多くても 10 ページ程度とコンパクトにまとめられている。この薄さにもかかわらず知りたい情報、私にとっては知識の再確認と後輩指導に役立つ情報は網羅されているのだ。私も数冊救急関連の本を書いているが、どうしても経験が浅いが故に記載の根拠として多くの論文を引用し、それを自慢気に記載してしまいがちだ。大切なことは読者の行動をよりよい方向へ向けることであり、多くの情報が紙面上で羅列してあると重要な点が伝

わりづらいものである。本書の特徴・利用時の留意点には、あえてボリュームダウンしたと記載があり、その量が「上級医が高齢者 ER を若手に教育するときの情報量としてちょうどよい塩梅」だとある。私にとってドンピシャの本だったわけである。

めまいの項では「先行感染の確認が前庭神経炎の診断に役立つことはまずない」、「HINTS はレジデントには難しい」とある。ここまで言い切ってくるとさすがすごいでしょ。こんなパールも随所に記載され、さらに各テーマ（症候）の最後には「高齢者は成人とここが違う！」という見出しが置かれ、レジデントが陥りやすい注意点がまとめられている。現場ですぐに使用でき、さらにはそこから「より深く知りたい」という好奇心が駆り立てられる内容が満載だ。引用文献が知りたい、もっと詳しく知りたい場合には、な、な、なんと増井先生はそのあたりも見越して、「情報源となる引用文献が知りたければ質問 OK、ライブ講演も依頼してね」とメールアドレスの記載までご丁寧にある。これを良い機会として増井先生と連絡を取ってみるといいのでは？！

マニュアル本の多くは通読できない。内容が素晴らしくても読むのに疲れてしまう。こんなに読みやすいマニュアル本は他には知らない。さあ、この本を持って ER へ出かけよう！